

中 学 校

平 成 15 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

国	語
---	---

東 京 都 教 職 員 研 修 セ ン タ ー

平成 1 5 年度

教育研究員名簿（中学国語）

	区市町村	学 校 名	氏 名
文字言語班	港 区	青 山 中 学 校	飯 塚 靖
	墨 田 区	寺 島 中 学 校	盆 子 原 正 光
	葛 飾 区	双 葉 中 学 校	西 谷 昌 久
	江 戸 川 区	松 江 第 三 中 学 校	長 谷 川 由 美 子
	狛 江 市	狛 江 第 二 中 学 校	高 原 美 和 子
音声言語班	文 京 区	第 五 中 学 校	山 崎 章
	品 川 区	八 潮 中 学 校	宮 本 由 里 子
	大 田 区	東 調 布 中 学 校	平 井 俊 介
	練 馬 区	関 中 学 校	橋 谷 田 育 子
	八 王 子 市	宮 上 中 学 校	田 代 健 志
	立 川 市	立 川 第 五 中 学 校	東 城 葉 子
	町 田 市	本 町 田 中 学 校	滝 澤 幸 恵

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター

指導主事 吉田 和夫

指導主事 光山 真人

指導主事 荒井 秀樹

目 次

研究主題設定の理由	2
-----------	---

研究の構想

1 基本的な考え方	3
2 研究構想図	3
3 研究の方法	4

研究の内容

1 文字言語班

(1) 研究副主題設定の理由と仮説について	5
(2) 研究の内容・主題に迫る手だて	5
(3) 指導の実際	6
(4) まとめ	13

2 音声言語班

(1) 研究副主題設定の理由と仮説について	14
(2) 研究の内容・主題に迫る手だて	14
(3) 指導の実際	15
(4) まとめ	23

研究のまとめと今後の課題	24
--------------	----

思考力を高め、主体的に学ぶ力を育てる指導と評価の工夫

研究主題設定の理由

1 社会的な背景

IT革命に象徴される現代社会は、膨大な情報量の行き交う情報氾濫社会でもあると言われる。その中では、情報を的確に処理するために、思考力がますます必要とされてくるであろう。中央教育審議会答申「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」(平成15年10月7日)では、「いまだかつてなかったような急速かつ激しい変化が進行する社会を一人一人の人間が主体的・創造的に生き抜いていくために、教育に求められているのは、子どもたちに、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」が必要であることや、このような「生きる力」をはぐくむことが提言されている。

学校教育では子どもたちにこのような力を計画的に育てていく必要がある。特に国語科においては、これまで以上に思考力の育成について指導改善を図っていくことが求められている。

2 生徒の実態

情報を基にして自分の考えを話したり書いたりして伝え合う力について、研究員の所属校における生徒の実態について分析・検討した。その結果、国語科の授業で意見を発表する際に、他者の意見をそのまま取り入れたり、根拠が不明確なまま発表したりすることがどの学校でも多いことが分かった。これは、情報入手から意見発表までの過程が省略され、入手情報がそのまま思考過程を経ずに発表意見となっているものと考えられる。このことから、入手した情報を分析した上で判断し、総合的に考えていくという思考過程を国語科の授業に一層取り入れる必要があることが確認された。

3 学習指導要領における国語科の目標

学習指導要領では「伝え合う力を高める」ことを目標とし、社会生活に必要な言語能力としての、互いの立場や考えを尊重しつつ言葉により伝え合う力の育成を重視している。また、「思考力や想像力を養い」とあり、思考することの重要性が目標に掲げられている。このことを踏まえて、国語科の授業の「読む」「聞く」から「書く」「話す」までの過程の中で、生徒の思考過程を明確に位置付け、自ら考えるための適切な手だてを明示して指導することにより、生徒の自ら主体的に学ぼうとする意欲を喚起し、思考力を高めていく指導が可能であると考えた。

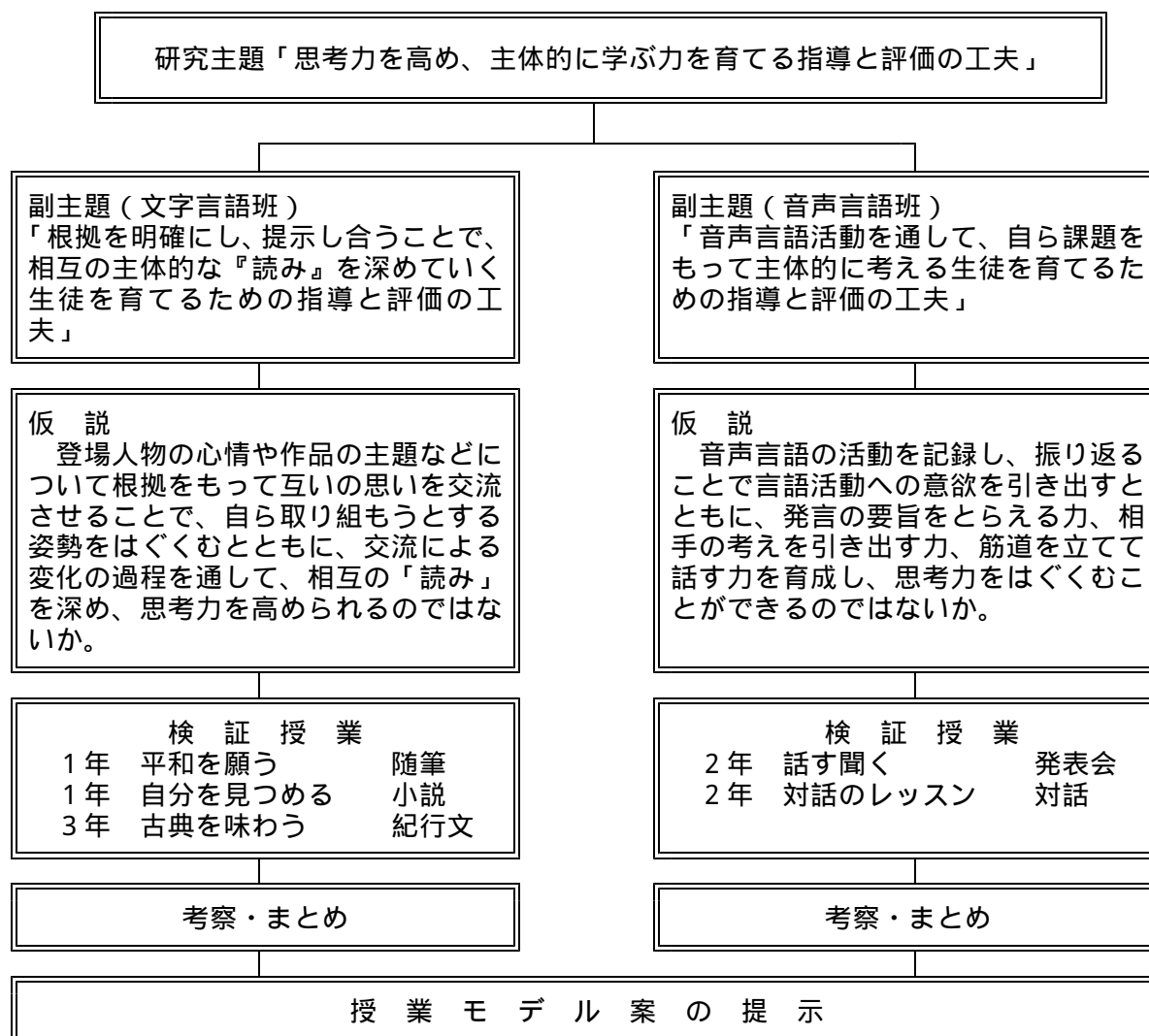
以上のことを踏まえ、学習の基本である思考力と主体的に学ぶ意欲とを育てるために、本研究では上記の研究主題を設定した。

研究の構想

1 基本的な考え方

「平成13年度教育課程実施状況調査教科別報告書」(平成15年5月 国立教育政策研究所)には「本文中の表現を根拠として自分の考えを述べる問題などでは、設定通過率を下回る」(中学・国語)、「結果を導く根拠や手順、既習の知識の生かし方などについて、自分の考えを説明したり振り返って考えたりする活動を充実させることが必要」(中学・数学)等、思考力の低下に関する内容が指摘されている。これは思考しようという意欲の低下であるとも考えられる。このことを踏まえて、国語科の授業で生徒が根拠を明確にして相互の考えを交流し説明し合う道筋を思考過程として位置付け、自ら思考していく過程をたえず振り返り自己評価する場を設定していくことにより、生徒は思考していく方法を学ぶとともに、思考力を高め、主体的に学ぶ意欲が育つと考えた。

2 研究構想図



3 研究の方法

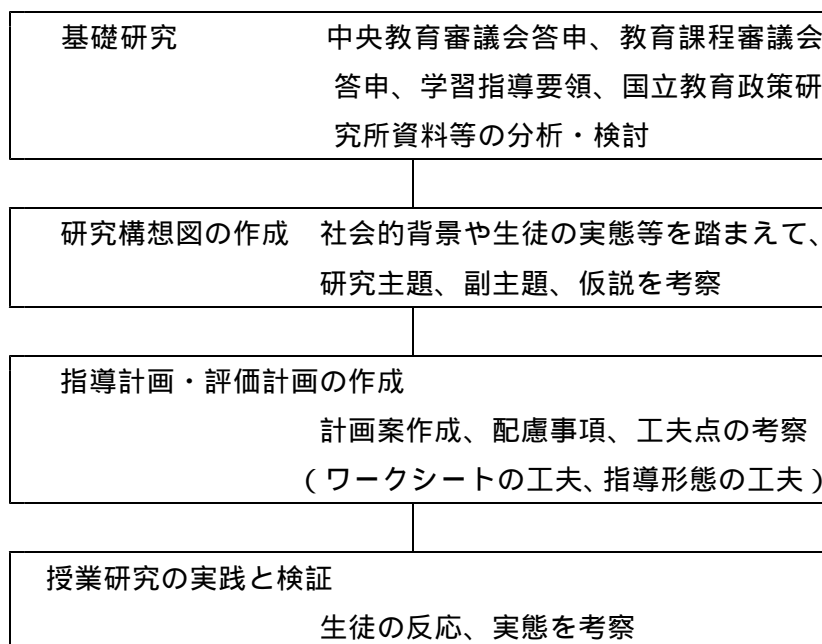
1の基本的な考え方に立ち、文字言語、音声言語の両面から、思考過程を具体化して検討するための指導法の工夫・改善及び評価について次のような研究方法をとった。

(1) 研究構想図の作成

基礎研究として、中央教育審議会答申、教育課程審議会答申、学習指導要領、国立教育政策研究所資料などの読み合わせを行い、分析・検討していくことで現在国語科に求められている研究主題について考察した。その結果、社会的背景や子ども達の実態、学習指導要領の目標を踏まえて、思考力を高めること、主体的に学ぶ力を育てることを研究主題に取り入れることにした。この方向を固めるため研究授業を2回実施し、生徒の実態を分析した。そして、夏季集中協議で文字言語班、音声言語班ごとの研究副主題と研究仮説を考察し、2の研究構想図を作成した。

(2) 仮説を検証するための授業研究の実施

研究構想図を作成した後、研究仮説、指導の工夫・改善や評価について検証すべく検証授業を3回実施した。その際、生徒の反応を検証するためにワークシートを効果的に使い、一人一人の思考過程を確認できるようにした。また、生徒の自己評価についてワークシートを使って毎時間実施し、生徒自身に思考過程を振り返らせるとともに、教員が検証していけるように工夫した。この3回の検証授業を分析・検討していくことで本研究の仮説を検証し、研究をまとめた。



研究の内容

1 文字言語班

(1)研究副主題設定の理由と仮説について

文字言語班では、本研究の推進にあたり「根拠を明確にし、提示し合うことで、相互の主體的な『読み』を深めていく生徒を育てるための指導と評価の工夫」という副主題を設定した。

基礎研究や生徒の実態の分析・検討により、生徒の文章の読みから導き出した意見や考えが、自分で深く考えたものではなく、様々なメディアや他の人の意見からの引用であったり、単なる思いつきなどをそのまま自分の意見や考えとしてしまう傾向があったりして、論理的な思考に慣れていない状況であることが分かった。生徒の論理的な思考を促すためには、生徒自身が意見の根拠を見付け、情報を整理し、そこから導かれることを客観的に考えたり、あるいは、自己の経験と照らし合わせたりする機会や経験が必要である。また、他者との意見交換を行い、他者の意見や評価を参考にして、自分の意見に修正を加え客観性を高めるよう意識させて、最終的な自分の意見を構築するという一連の道筋を指導することが必要である。

さらに、これらの論理的な思考から得た情報に学習者自身の自由な発想を加え、創造的に思考を伸張させていくことも必要であると考えた。

そこで、文字言語班では、文学的文章の作品の主題や登場人物の心情や生き方について、文章中のことばや個人の経験を根拠にして自分の考えをもち、相互の読みを交流することが、生徒の考えを広げ深めることになり、思考力を高めることにつながると考え、上記の研究副主題を設定した。そして、主に文学的文章を読むことを中心とした指導法の工夫・改善を目的に次の研究仮説を立てた。

「登場人物の心情や作品の主題などについて根拠をもって互いの思いを交流させることで、自ら取り組もうとする姿勢をはぐくむとともに、交流による変化の過程を通して、相互の『読み』を深め、思考力を高められるのではないか。」

(2)研究の内容・主題に迫る手だて

明確な思考過程の提示

文学的文章の読みの思考過程を、「情報を整理する 明確な根拠を見いだす 論理的に思考し意見をもつ グループや学級で他者との意見交換を行い思いを磨き合い、さらに客観的に洗練させる 自分の自由な発想を加味して思いを広げ、読みを深めていく」とし、ワークシートを工夫し、それを活用することが有効な手だてになると考えた。そこで、ワークシートを工夫して作成し、検証授業の中で用いる実践を積み重ねた。

ワークシート作成の際には、読みの変化の過程を追い、読みの深さや深まり、思考の過程が明確になるよう工夫するとともに、それらが的確な自己評価につながり、目標に準拠した評価に資するものとなるよう留意した。

(3) 指導の実際

- 指導例 その1 -

【目指す言語能力】

根拠を明確にしながら読み、他者と意見を交流し合うことができる力をつける。

【使用教材】文学的文章「空中ブランコ乗りのキキ」(三省堂「現代の国語1」)

【教材選定の理由】

文学的文章において、直接的な表現 会話・内言 行動・表情等のキーワードを根拠として登場人物の心情を理解していく学習を行うのに適している教材と考えた。

【指導内容、生徒のかかわり】

ア グループ協議・各グループの発表を通じ、自分が考えた根拠と比較し、見落とししてしまった点などを補足し合い理解を深める。

イ 文章全体の内容を踏まえた上で、一人一人がそれぞれの余韻をもつ。

ウ 各自が見つけた根拠(ステップ1) グループ協議での確認(ステップ2) クラス全体での確認、という形で1枚のワークシートで自分の読みの深まりが分かるようにする。

【指導目標】

文学的文章の登場人物の心情を、根拠を明確にすることで、より深く理解する。

【単元の評価規準】

国語に対する関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
他者の意見との交流・ワークシートの活用を通して、読みを積極的に深めようとしている。	主人公の心情を、文章中の表現から根拠を明確にして理解する。	行為や心情の変化を表す語句に注目し、ワークシートを活用して理解を深めている。

【指導・評価計画】(6時間扱い)

時	目標・内容・活動	指導上の留意点	評価規準・方法
1	物語全体のあらすじを理解する。 ----- CDの範読を聞きながら、単語程度で答えられる小テストを行う。その後、黙読をし、場面ごとの設定の概略をまとめる。	範読を聞きながら小テストに取り組むため、範読終了後に見直しの時間を確保する。黙読の際には場面ごとのキーワードを板書する。	範読を聞くことや黙読を通して、あらすじを理解し、場面ごとの設定を確認している。 [小テスト・観察・ノート]
2	物語全体の背景・設定を理解する。 ----- 序盤部分での主人公キキの立場や「三回宙返り」など、この作品のキーワードについてワークシートにまとめる。	ワークシートにまとめる際に机間指導を行い、理解の不十分な生徒にはヒントを与える。その後発表を行い、自分が見落としたこと、新たに確認したことをワークシートに書き取らせる。	キキの人気・評判の理由や、物語の中で「三回宙返り」がどのようなものとして描かれているかを理解している。 [ワークシート・発言・観察]
3	登場人物の心情を理解する根拠となる表現の見付け方を知る。 ----- 登場人物の心情の根拠として、直接的な表現 会話・内言 行動・表情等に注目するようガイダンスを行う。 キキの日常での心情、特に「四回宙返り」をどのように考えていたかをワークシートにまとめる。	ガイダンスでは以前に学習した教科書教材の中の部分を具体例として紹介する。その後の授業で継続して使用できるよう、教具を準備しておく。 ワークシートにまとめる際に机間指導を行い、理解の不十分な生徒にはヒントを与える。その後発表を行い、自分が見落としたこと、新たに確認したことをワークシートに書き取らせる。	直接的な表現、会話・内言、行動・表情等から心情を読み取っている。 「四回宙返り」に挑むことの重大さを理解している。 [ワークシート・発言・観察]

本 時	<p>キキが「四回宙返り」に挑む決意をする心情の変化の過程を読み深める。</p> <p>-----</p> <p>前時までにまとめたキキの「四回宙返り」に対する意識を再度確認する。</p>	<p>前時までの内容確認が不十分な生徒には他者の発表を書き取らせ、確認を促す。</p> <p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キキは、自分以外に「三回宙返り」ができる人が現われたら人気が落ちてしまうだろうと不安に思っていること。 ・その場合には、命がけで「四回宙返り」に挑まなければならぬかもしれないと思っていること。 	<p>心情を表す根拠となる表現に気付いている。</p> <p>ワークシート・机間指導</p>
	<p>キキが「四回宙返り」に挑む決意をする場面を配役を決めて音読し、心情の変化をワークシートに記入する。</p> <p>4人ずつのグループに分かれて話し合い、自分の気付かなかった意見をメモし、グループ内で時系列に沿ったキキの心情の変化を確認する。</p> <p>各グループで話し合った内容を代表が発表する。他のグループの意見で、自分が見落としていたものがあればワークシートに記入する。</p>	<p>音読の際は登場人物になったつもりで感情を込めて読ませる。キキやおばあさんの言葉の内容や言い方、行動などに注目し、それを基にどのような心情であるかを考えさせる。</p> <p>グループ内の進行役を決め、順番を指定するなどにより、グループ全員が発言できるようにする。また、他者の意見をよく聞き、自分の足りなかった点を補わせる。</p> <p>発表された意見を基に、時系列に沿ってキキの心情の変化のまとめを板書する。特にこの時点まででは、キキが「四回宙返り」に挑むのは無謀であり、死を覚悟していることを理解させる。</p>	<p>グループの話し合いで、積極的に意見を述べたり、人の意見を真剣に聞いていたりしている。</p> <p>ワークシート・机間指導</p> <p>時系列に沿ったキキの心情の変化を、根拠を明らかにしながら理解している。</p> <p>発表・観察・ワークシート</p> <p>・評価Cの手だて 机間指導により、心情の変化を示す根拠となるキーワードを個別に提示する。</p> <p>・評価Aへの手だて 心情の変化を示す根拠を、「直接的な表現」以外からも見つけ出させる。</p>
<p>【確認事項】 「時系列に沿った心情の変化」(例)</p> <p>最高の「三回宙返り」を行い、得意な気持ち。「三回宙返り」を成功させた者が現れたことを知った驚き。自分の恐れていた事態になったことの認識と落胆。その不安を払うための自分への慰め・言い訳。命をかけて「四回宙返り」に挑もうとする決意。</p>			
	<p>文学的文章の心情を読み取るために、直接的な表現、会話、行動等が根拠となることを確認する。</p>	<p>キキが「四回宙返り」に挑む決意を読み取る際に、直接的な表現、会話、行動等に注目できたかを振り返らせる。</p>	
5	<p>キキの「四回宙返り」に挑む過程を自分の言葉で文章にまとめる。</p> <p>-----</p> <p>前時までにワークシートにまとめたメモを基に、キキが「四回宙返り」を決意する心情の変化を文章にまとめる。その後、実際に「四回宙返り」に挑む場面の様子を理解する。</p>	<p>自分のワークシートを手がかりに文章を書かせる際に、キーワードを板書しておくとともに机間指導を行い、なかなか文章化できない生徒には、短くてもかまわないから一つ一つの文を正確に書くよう指導する。</p> <p>実際に「四回宙返り」を行う場面で多用されている比喩表現と観客の反応に注目させる。</p>	<p>キキが「四回宙返り」に挑む決意をするまでの心情の変化を自分の文章にまとめている。</p> <p>ワークシート・机間指導</p> <p>「四回宙返り」の様子を理解している。</p> <p>ノート・発表</p>
6	<p>作品全体の内容を把握した上で、終結部について自由な発想で考え、読みを深める。</p> <p>-----</p> <p>終結部で、なぜ「白い大きな鳥は悲しそうに鳴きながら飛んでいった」のか、自分の考えをワークシートにまとめる。</p>	<p>前時までの内容を振り返らせた上で、終結部について自由な発想で考えさせる。その際に、終結部だけのまとめとするのではなく、教材全体に対する感想や意見の要素をもつことを示し、文を書くことが苦手な生徒にも取り組ませる。</p>	<p>作品全体の内容を理解した上で、終結部について自由に発想している。</p> <p>ワークシート・机間指導</p>

「お母への入口紙の書き方」ワークシート①

※※※※※日本国産紙製袋の仕立て方 ※※※※※日本国産紙製袋の仕立て方

① お母への入口紙の書き方 ② お母への入口紙の書き方 ③ お母への入口紙の書き方 ④ お母への入口紙の書き方 ⑤ お母への入口紙の書き方 ⑥ お母への入口紙の書き方 ⑦ お母への入口紙の書き方 ⑧ お母への入口紙の書き方 ⑨ お母への入口紙の書き方 ⑩ お母への入口紙の書き方
--

「お母への入口紙の書き方」ワークシート②

※※※※※日本国産紙製袋の仕立て方 ※※※※※日本国産紙製袋の仕立て方

① お母への入口紙の書き方 ② お母への入口紙の書き方 ③ お母への入口紙の書き方 ④ お母への入口紙の書き方 ⑤ お母への入口紙の書き方 ⑥ お母への入口紙の書き方 ⑦ お母への入口紙の書き方 ⑧ お母への入口紙の書き方 ⑨ お母への入口紙の書き方 ⑩ お母への入口紙の書き方
--

お母への入口紙の書き方
お母への入口紙の書き方
お母への入口紙の書き方
お母への入口紙の書き方
お母への入口紙の書き方
お母への入口紙の書き方

「お母への入口紙の書き方」ワークシート③

※※※※※日本国産紙製袋の仕立て方 ※※※※※日本国産紙製袋の仕立て方

(1) 日本国産紙製袋の仕立て方 ① お母への入口紙の書き方 ② お母への入口紙の書き方 ③ お母への入口紙の書き方 ④ お母への入口紙の書き方 ⑤ お母への入口紙の書き方 ⑥ お母への入口紙の書き方 ⑦ お母への入口紙の書き方 ⑧ お母への入口紙の書き方 ⑨ お母への入口紙の書き方 ⑩ お母への入口紙の書き方	(2) 日本国産紙製袋の仕立て方 ① お母への入口紙の書き方 ② お母への入口紙の書き方 ③ お母への入口紙の書き方 ④ お母への入口紙の書き方 ⑤ お母への入口紙の書き方 ⑥ お母への入口紙の書き方 ⑦ お母への入口紙の書き方 ⑧ お母への入口紙の書き方 ⑨ お母への入口紙の書き方 ⑩ お母への入口紙の書き方	(3) 日本国産紙製袋の仕立て方 ① お母への入口紙の書き方 ② お母への入口紙の書き方 ③ お母への入口紙の書き方 ④ お母への入口紙の書き方 ⑤ お母への入口紙の書き方 ⑥ お母への入口紙の書き方 ⑦ お母への入口紙の書き方 ⑧ お母への入口紙の書き方 ⑨ お母への入口紙の書き方 ⑩ お母への入口紙の書き方
--	--	--

B 4判 2枚のワークシートを広げることにより、自分の読みの深まりを確認できるように工夫した。

今日の教材 空中ブランコ乗りのキキ

※ 今回の教材の学習を終えて、自分の取り組みを振り返りましょう。
 (「5」が最高評価、「1」が最低評価の5段階で、各評価を線で結びましょう。)

	5	4	3	2	1
この物語で、主人公キキの立場や考え方の基盤がわかったか。					
四回宙返りに挑む決意をするまでのキキの心算の変化が読み取れたか。					
キキの心情を読み取るときに、根拠となる表現を見つけられたか。					
グループの話し合いで積極的に意見を述べたり、人の意見を耳側に聞くことができたか。					
グループの話し合いやクラス全体での発表を通して、自分の考えが深められたか。					
全体の流れを理解した上で、最後の「白い大きな鳥が黙しそうに囁いていた」のほどうしてかを考えられたか。					

単元全体のこれまでの学習を振り返り、学習の深まりを確認するために実施した。

- 指導例 その2 -

【目指す言語能力】

古典の学習を通して、言語感覚を豊かにし、論理性や思考力を高め、より広い視野から作品をとらえ、相互の読みを深める力を付ける。

【使用教材】 『おくのほそ道』より「立石寺」(教育出版「中学国語」「伝え合う言葉 3」)

【教材選定の理由】

中学校の文学的文章の古典作品の中で、俳句は文章中の言葉に根拠をもちながら学習者の多様な読みを広げていくことに適した教材と考えた。

【指導内容、生徒のかかわり】

これまで古典教材による学習において、「読み深め」のために補充資料を基に学習者が項目を選択し、自己の読みを深めるという学習指導を行ってきた。各自が読み深めた内容を他者に分かりやすく伝達するためには、根拠を明確にした説明が不可欠である。そこで少人数グループに分かれ、異なる材料や視点・切り口やお互いの思いを交流し磨き合うことで相互の読みを深めるとともに、学習者自身の読みの深まりの変化をワークシートで追いながら論理性を養い、思考力を高めさせる指導を考えた。

【指導目標】

広い視野から課題を見付け、必要な材料を集め、自分のものの見方や考え方を深める。

【単元の評価規準】 【指導・評価計画】(6時間扱い)

国語に対する興味・関心・意欲	読む能力	言語についての知識・理解・技能
他者の意見との交流・ワークシートの活用を通して、読みを積極的に深めようとしている。	三つの俳句の鑑賞において、自分の意見をもつとともに他者との意見交換を通して根拠を明確にして理解する。	三つの俳句の印象の違いに通じる語句に注目し、ワークシートを活用して理解を深めている。

時	目標・内容・活動	指導上の留意点	評価規準・方法
1	芭蕉と『おくのほそ道』を調べる。 二つのキーワードを手がかりとしてインターネットで検索し、発表し合う。	事前学習として、できるだけ多くの情報を広く検索し、共有し合うことを指示する。	他者の発表を聞き、自分に不足している情報を収集している。 [モニターチェック・ワークシート]
2	冒頭部分の内容を把握する。 冒頭部分原文のワークシートを利用して疑問語句を出し合い、考え合う。	互いに出し合った疑問語句を補助資料を基に検討することを指示。	積極的に語句をチェックし、他者の意見を参考にしている。[ワークシート]
3	二つの視点から「平泉」を読む。 「a・歴史上の人物」「b・人間と自然」 aとbのいずれかを選択し、芭蕉の心情について根拠を示し意見をまとめる。	教科書注釈・国語資料集・杜甫「春望」などの補助資料も参考にすることを指示。	根拠を示しながら自分の意見を分かりやすく表現している。 [ワークシート]
4	「立石寺」の風景をビデオ教材を通して鑑賞する。語句内容を把握する。 「立石寺」の風景で印象に残った内容をワークシートに記入し発表し合う。 疑問語句を出し合い考える。	印象的な言葉や名称・解説などについては、メモを取りながら鑑賞することを指示する。	ビデオ教材から、印象に残った内容を選び出し集約している。 他者の意見も収集している。[ワークシート]
5	〔閑かさや・〕の句に込められた、芭蕉の心情について、 初案・山寺や石にしみつく蝉の声 再案・寂しさや岩にしみこむ蝉の声 本案・閑かさや岩にしみ入る蝉の声 の三つの俳句の印象の違いを考える中で、根拠を明確にして表現する。 三つの俳句それぞれの印象について、根拠を示しながらワークシートにまとめる。	根拠として、次の4つの項目が考えられることを提示する。 A 「立石寺」原文注釈 B 当日の芭蕉の行動 C 前時のビデオ教材 D 自己の体験的根拠	芭蕉の自然との出会いに着目し、且つ、三つの俳句それぞれの印象の違いを形成するに至った根拠を自己分析し、芭蕉の感動を積極的にとらえようとしている。 [ワークシート・机間指導]
6	他者の意見を積極的に聞き、相互の意見を合わせていくことによって自己の読みを深め、思考力を高める。 冒頭部分を全体で暗唱する。	古文のリズムを意識しながら暗唱することを指示する。 本時の目標と、4人班で意見を合わせていく	

	<p>古典カラオケに1名が取り組む。 本時の目標と授業の流れを確認する。 「立石寺」本文を音読練習する。</p>	<p>ことを具体的に提示する。</p>	
<p>本 時</p>	<p>「班内発表 1」 〔閑かさや・・・〕につながる俳句の印象の違いについて、4人班の中で互いの意見を発表し合う。 他者の意見を聞き、自分の意見と比べる。特に、自分が気付かなかった視点や切り口に立った意見があればワークシートにメモをとり、積極的に根拠の説明を求めていく。納得できた場合はワークシートにラインチェックする。</p> <p>「班内発表 2」 〔閑かさや・・・〕の俳句の中で、芭蕉が伝えなかった感動は何だったのかについて話し合う。</p> <p>他者と意見を交流させる。 全体の場において、気付かなかった視点や納得できた点、班で表れた意見や根拠について発表し合う。</p> <p>「初案・再案・本案」それぞれの中で、各班の意見・根拠をプラカードを上げながら発表する。</p>	<p>自分の印象を形成している「根拠」についても、発表し合うことを指示する。 ワークシートには聞き取った内容をそのまま逐一記入するのではなく、自分の気付かなかったものを中心に取捨選択しながらまとめることを指示する。 次の2点を手がかりとして提示する。 「初案・再案・本案」の中で芭蕉が、 A・共通して伝えなかったものは何か。 B・それぞれの句で特に伝えなかったことについて、気付かなかった視点や考え方、根拠等をワークシートにメモすることを伝える。 ・発表者が根拠の説明などで行き詰まった際には、交替で補足説明をするよう指示する。</p>	<p>積極的に他者の意見を聞いている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>机間指導 観察 ワークシート</p> </div> <p>三つの俳句に共通するものは何か。また本案に至る芭蕉の感動を伝える上での模索について、他者と意見の交流ができています。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>ワークシート 観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価Cの手だて 自分の意見の変化を個別にワークシートを確認することで見付けさせる。 ・評価Aへの手だて 意見交流によって読みが深まった点を具体的に表現させる。 </div>
	<p>「意見の練り直し」を班で行う。 他者との意見の交流や提示された根拠を参考にして、再度芭蕉の感動についてワークシートに意見をまとめる。 単元全体のこれまでの学習を「自己評価表」によって振り返り、学習の深まりを確認する。</p>	<p>これまでの学習を振り返り、〔閑かさや・・・〕の俳句に表れる芭蕉の心情について自己の意見を再度練り直し、深めることを指示する。</p>	<p>他者との意見の交流によって読みが深まっている。 ワークシート</p>

(4) まとめ

文字言語班では、「根拠を明確にし、提示し合うことで、主体的に相互の『読み』を深めていく生徒を育てるための指導と評価の工夫」という副主題を設定し、研究仮説に基づき研究を進めてきた。ここでは、研究仮説に従い検証授業を行いながら改善を重ねていく中で得られた成果と今後の課題についてまとめる。

成果

本研究の推進に当たり、仮説に基づき、少人数の学習集団による協議とワークシートを工夫することで、次のような成果が得られた。

ア 根拠を明確にすることについて

ガイダンスなどを通して根拠がどういうものかを明らかにさせることにより、受け売りや思いつきではない論理性をもった意見や考えを発表することができるようになった。また、自分の意見に論理性をもたせるために、積極的に根拠を求めていく姿勢が見られるようになった。

イ 根拠を提示し合うことについて

少人数（4人程度）の学習集団に分かれて話し合いをすることで、それぞれが自分の意見を出し合い、他者の意見を取り入れやすい雰囲気の設定することができ、相互の意見が活発にやりとりされるようになった。そして、異なる視点や切り口から根拠と意見を互いに交流し合うことによって、生徒が自己の思考をさらに広げる可能性を高めた。

ウ 思考の積み重ねについて

個の読みにおける根拠と意見とをつなぐ思考、少人数グループによる協議での思考、グループ発表での学級全体による交流に伴う思考、そして最終的な個によるまとめの思考と、思考の段階を積み重ねることにより、一人一人の読みが深まり、考えようとする態度がはぐくまれていった。

エ ワークシートの活用と振り返りについて

ワークシートには段階を踏んで、個人の読み グループでの読み 学級での読み 個人のまとめの読みと、それぞれが根拠と意見のつながりが分かるように並んでおり、すぐに自分の考えの変容（深まり）が視覚的に実感されるよう工夫した。これによって、ワークシートに書き込みながら読み、話し、考えることができ、思考を深めていく手順を自覚しながら学習することができた。また、このワークシートを使って振り返りを行うことにより、自己の思考の過程を把握し、客観的に自己評価することができた。

オ 評価について

ワークシートの工夫により、教師が生徒一人一人の思考過程を明確に評価することができた。

今後の課題

ア まだ「根拠」を「イメージ」や「感じ」と混同している場面が見られる。根拠という概念をさらに明確に指導していく必要がある。

イ ワークシートについての基本的な考え方は共通であるが、扱う教材によって様々な形が考えられる。本研究においては、このワークシートによる振り返りや自己評価の役割が大きいいため、教材に応じてワークシートをさらに工夫・改善する必要がある。

ウ 学習活動としての振り返り（自己評価）をさらに有効なものにするために、ワークシートの様式の工夫や、意欲と思考を一層啓発する指導と評価の手だての開発が必要である。

2 音声言語班

(1) 研究副主題設定の理由と仮説について

音声言語班では、本研究の推進にあたり「音声言語活動を通して、自ら課題をもって主体的に考える生徒を育てるための指導と評価の工夫」という副主題を設定した。

学習指導要領解説「第3章 1 指導計画の作成上の配慮事項(2)」には「相手を説得したり、互いの共通点や相違点を、例えば、話し合い中に要点をメモすることなどにより、はっきりさせることを通して、創造的な話し合いを行う能力が育成される。」とある。古来、日本人は以心伝心という非言語的コミュニケーション能力を高く評価してきた一面がある。しかし、今や日本の社会は他者と意思の疎通を円滑に行なうという点で不十分な面が目立つようになってきた。また、国際化社会を迎え異文化の人に対しても十分に対応できるだけのコミュニケーション能力も同時に求められつつある。

音声言語班では、コミュニケーションに必要なことは「発言の要旨をとらえること」「相手の考えを引き出すこと」「筋道を立てて話すこと」であると考え、これらの力を高めることをとおして思考力の育成を図ろうとした。

ア 発言の要旨をとらえる力...話し合いの脈絡を再確認することで、話の主題とのずれや関係のない発言などを発見するとともに、自分の質問の内容を見直すことでどの程度相手の話を理解していたのかが分かるようになる。

イ 相手の考えを引き出す力...相手の考えを引き出すためのよりの確な質問を考える。

ウ 筋道を立てて話す力...自分の発言を正確に理解してもらうにはどうすればよいか考える。

音声言語班では、会話や対話などの音声言語活動の学習で話し合いの記録をとり、自分の話した内容を客観的に見直すことを行った。これによって、自らの話す力を振り返り、上記ア～ウの力を向上させるとともに、話し合うことへの意欲を引き出すことができると考えたのである。そして、これらをとおして、思考力を高めるための指導と評価が実現すると考え、次の研究仮説を立てた。

「音声言語の活動を記録し、振り返ることで言語活動への意欲を引き出すとともに、発言の要旨をとらえる力、相手の考えを引き出す力、筋道を立てて話す力を育成し、思考力をはぐくむことができるのではないか。」

(2) 研究の内容・主題に迫る手だて

言語活動を記録し、それを対象として分析を行うこと

これは、生徒が主体的に自分の意見を見つめ、論理的な話し方の必要性に気付くようにするための手だてであり、言語活動を記録することで「話の脈絡」を相互に客観的に見直すことが可能になり、より論理的な話し方をするための手助けとなるものである。

また、話し合いの記録をとり分析することにより、「話す速度」「音量」「言葉の調子」「間の取り方」などの話し方の基本的な技術に関して、目標に準拠した評価を行う点で有効である。

工夫をこらした自己評価表を作成し、振り返りを行い次回の活動に生かすこと

自己評価表の目標は、達成しやすいものから高度で達成しにくいものまで、順を追って表記するように工夫した。評価表で自己の達成の度合いを見ることにより、目標にどの程度近づいたのかを把握させ、生徒に学習の目安をもたせて意欲を引き出すとともに、教師が生徒のつまづきを把握し、個に応じた効果的な指導ができるようにした。

(3) 指導の実際

【目指す言語能力】

「対話」を通して伝え合うことの大切さや面白さを知り、相手の考えを引き出す力を育てる。

【使用教材】

「対話を考える」 平田オリザ(三省堂「現代の国語 2」) 事前の学習で使用

「対話のレッスン」 平田オリザ(小学館)より「二十一世紀、対話の時代に向けて」の一部分

だまし絵 「図説アイ・トリック 遊びの百科全書」種村季弘他(河出書房新社)より数点

川柳 「通販生活 カミさん川柳」および新聞各紙の投稿欄より数点

【教材選定の理由】

「伝え合いたい」と必ずしも強く願っているわけではないとも思われる生徒たちに、どうしたら「主体的に伝え合う力」を付けられるのか。それには「話したくなる」「聞き出したくなる」題材がまず必要である。そこで「だまし絵」「川柳」という親しみやすく、かつ一通りの読み方だけではない作品を対話の導入段階の題材に選んだ。また、対話を通して「お互いの違い」を大切にすることを養うとともに、互いの見方に触れながら自分を深めていく体験をしてほしいと考え、対話として深まりが期待ができそうな題材を設定し、相手の話を引き出す質問をすることを目標とした。そこに思考力をはぐくむポイントがあると考えたからである。

【指導内容、生徒のかかわり】

生徒の対話の様子はすべてテープレコーダーで録音し、そのうち一度は文字に起こす作業を行わせることにした。これは、自己評価カードによる段階的な目標提示と振り返りとの併用により、自分の成長を客観的にとらえながら自ら進んで学ぶことができると考えたからである。

「対話は、伝わらないところから始まる」と作者の平田オリザ氏は言う。自分と他者との差異を恐れず、「差異から来る豊かさの発見」を目指して、自己を解放し積極的に伝え合おうとする生徒を育てていく。

【指導目標】

- ・自ら進んで対話に参加する中で、自分の考えを深めたり広げたりする。
- ・相手との違いを大切にしつつ、話を引き出し、対話を活発化させる効果的な質問をする。

【評価規準】

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
対話において、自分の考えを伝えるために工夫して表現しようとしていたり、相手の立場や考えを尊重して聞き取るうとしたりしている。	相手の話の中からものの見方や考え方を引き出し、対話を活発にするための効果的な質問や発言をしている。 対話をするとき、互いの共通点や相違点などを聞き分け、自分の考えを広めたり、深めたりしている。	話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方に気を付けて聞いたり、話したりしている。 対話をするとき、相手や場面に応じた適切な表現を工夫している。

【指導・評価計画】(5時間扱い)

時	目標・内容・活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	学習のねらいをつかむ 話す力などに関する事前自己診断をする。 どんな力が不足しているか、どんな自分になりたいかをイメージして発表する。	積極的に対話をしたいと思わせられるように導入を工夫する。 よい面も自己評価できるように示唆する。	自分の態度や力を客観的に振り返っている。 積極的に発表している。 事前診断カード・観察
	対話練習 に積極的に取り組む。 封筒の中に入れていただき絵が何に見えるか、他の見方はないか、他の班にどう説明したらよいかなどを話し合い、テーブルレコーダーで録音する。	班のメンバーがすぐに分かるようにプリントを工夫する。 対話リーダー、録音係も決めておく。	対話に積極的に参加している。 班の中で協力して対話を進めている。 観察・テープ
	テープを聞き課題を見付ける。 録音テープを聞き、そこから反省点や課題を話し合う。 自己評価カードを参照しながら自分たちの対話技術や態度を振り返る。	自己評価カードの目標と照らし合わせて、自分たちの現状を客観的に振り返るようにさせる。	集中してテープを聞いている。 反省点や課題を出し合っている。 自己評価カード
	班毎に発表し今日のまとめをする。 発表を聞き、板書されたポイントを見ながら今日の学習を振り返り、自己評価カードにまとめる	対話リーダーが班の対話の様子を発表することを予告しておく。	今日のポイントを踏まえ、自分の学習を振り返る。 自己評価カード
2	「対話」について理解を深める。 平田オリザ氏の文章(「対話のレッスン」より)のプリントを読み、「対話はお互いの違いから出発する」ことを理解する。	難しい点は補いつつ、大事なところを押さえられるようにする。	対話について理解が深まっている。 観察・質問
	いくつかの川柳を読み、思い浮かんだ情景や心情をワークシートに書き込む。 その際他の読み方もできないか考えておく。	自分なりの読み方を大切にさせるようにする。 課題が終わった生徒には他の読み方や全体を通してのコメントができるように示唆する。	川柳を正しく読み取っている。 他の読み方も考えている。 ワークシート
	自己評価カードで今日の目標(話題をつなぐ質問、話題を広げる質問をする)を確認し、4人班で7分間程度の対話を行い、テーブルレコーダーで録音する。 班でいくつかの川柳を選び、それについて対話する。	前回の目標が達成できていない生徒には、それも今日できるとよいことを意識させる。 前回とは、リーダー、メンバー、係も皆異なるように事前にグループを組んでおく。	今日の目標をつかんでいる。 積極的に対話に参加している。 班の中で協力している。 自己評価カード・観察

	<p>テープを聞きながら、ワークシートに発言、間など記入していく。</p> <p>聞きながら今日の学習を振り返り、自己評価カードに記入する。</p>	<p>班員全員が書けるように協力しながらテープを起こさせる。</p>	<p>班の中で協力している。</p> <p>テープを正確に聞き、書き留めている。</p> <p>客観的に自己評価している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>ワークシート・ 自己評価カード</p> </div>
3	<p>対話練習 のテープを起こしたもののプリントを読み合い、話し合う。</p> <p>対話の中で「話が広がるきっかけになったよい質問」や「考えが深まるきっかけになったよい発言」はどれか話し合って印を付ける。</p> <p>自己評価カードに今日の学習の成果を記入する。</p>	<p>気が付いたことはメモを取り、積極的に発言するようにさせる。</p>	<p>積極的に話し合いに参加している。</p> <p>よい質問を見付けようとしている。</p> <p>話し合いの結果を端的に発表している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>プリント・観察</p> </div>
	<p>次時への予告と準備</p> <p>「私の好きな言葉」「大切にしたい思い出」など事前に募集した「話し合ってみたいテーマ」の中から深まりや広がり期待できそうなものをいくつか取り上げ、根拠を挙げて説明できるように準備する。</p> <p>ワークシートに「自分の選んだテーマ」と「そのテーマを選んだ理由」などを書き提出する。</p> <p>このワークシートを基に、3回目の対話を行うことを予告する。</p>	<p>なるべくたくさんのテーマについて書けるようにさせる。</p> <p>「そのテーマを選んだ理由」「自分の考え」「そう考える根拠」に分けて書くように指導する。</p>	<p>テーマをいくつか選んでいる。</p> <p>自分の考えや選んだ理由などを文章化している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>ワークシート</p> </div>
4	<p>今日の目標をつかむ。</p> <p>対話に入る前に自己評価カードで今日の目標（相手の話を引き出す、新しい見方を発見する）をつかむ。</p> <p>自分の目標も自己評価カードに記入する。</p>	<p>今まで達成できなかった目標にも意識させる。</p> <p>自分なりの目標を立てられるよう支援する。</p>	<p>今日の目標をつかんでいる。</p> <p>自分なりの目標を立てている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>ワークシート</p> </div>
本 時	<p>よい質問を考える。</p> <p>新しい4人班に分かれ、対話練習 の準備をする。</p> <p>同じ班になった3人への質問を考え、ワ</p>	<p>よい質問があると話題が広がり、対話が活発になることを思い出させる。</p> <p>同じ班になったそれぞれの人</p>	<p>3人それぞれに対して質問を考えている。</p> <p>相手の話を引き出すにはどんな質問をしたらよいのかよく</p>

<p>ークシートに記入していく。 「相手の話を引き出す質問」「相手との考え方の違いを明確にする質問」を出せるようにする。</p>	<p>へ質問を考えることを通して、お互いが協力し合う仲間意識を感じさせ対話への意欲が増すように留意する。</p>	<p>考えている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>自己評価カード・ワークシート</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・評価Cの手だて 質問を考えることのできない生徒には、その班のテーマに合わせて何パターンかの質問のヒントを書いたアドバイスカードを手渡していく。</p> <p>・評価Aへの手だて 質問に対する答えを想定させ、さらにそこから踏み込んだ次の質問を考えさせる。</p> </div>
<p>対話練習 を行い、テープに録音する。 15分程の対話をし、テープレコーダーで録音する。 ワークシートに記入した質問をし合い、活発な対話になるよう班で協力する。</p>	<p>班の配置、対話リーダー、録音係などはあらかじめ決めておく。 なるべく全員が対話リーダーを経験できるように組む。 あらかじめ考えていなかった質問などが即座に出せればなおよいことを意識させる。 対話が滞っている班には参加して支援する。</p>	<p>積極的に対話に参加している。 班で協力し活発に対話をしようとして努力している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>机間指導</p> </div>
<p>自分たちの成長を確認する。 今回の対話の成果、自分の成長などを自己評価カードで確認し、班の中で確認し合い、対話リーダーの生徒に発表してもらおう。</p>	<p>もう一度今日の目標を思い出しながら新しい見方の発見ができたか、話が広がるきっかけとなったよい質問はあったか、などを考えさせる。 小さいことでも自分たちの成長に気付けるように支援する。</p>	<p>学習の成果を振り返り、成長を確認している。 進んで発表している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自己評価カード・観察</p> </div>
<p>5 対話練習 のテープを聞き、話し合う。 班毎にテープを聞き対話を振り返る。 「効果的な質問とは」「対話の深まりについて」「自己の変容について」など、感じたこと考えたことを出し合い、まとめる。</p>	<p>班毎に前回の対話のテープを聞いて、目標に照らして評価し合うようにさせる。その際、よい点と改善すべき点の両方に注目させる。</p>	<p>テープを聞き、対話について自分なりの考えをもっている。 話し合いに積極的に参加している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>机間指導</p> </div>

<p>対話練習①、②、③のテープのうち、代表的な班のものを聞き比べて、気付いたことを発表し合う。</p> <p>クラスで対話についてまとめる。</p> <p>班で話されたことを発表し合う。</p>	<p>回が進むにつれ、積極的になり、対話も活発になった点に気付かせる。</p> <p>対話には、まず分かり合おう、伝え合おうという気持ちが大切であることを押さえる。</p>	<p>進んで発表している。</p> <p>対話について大切なことを確認できている。</p> <p style="text-align: center;">観察・ワークシート</p>
<p>自己評価カードに記入し、今日までの成果を振り返るとともに、さらなる目標を意識する。</p>	<p>わずかな時間の中で目覚ましい成長がみられたことを、具体例を挙げて指摘する。</p> <p>さらに、21世紀の世界でより積極的に様々な人々と対話をしていく上での心構えをもたせる。</p>	<p>今までの自分の成長を感じ取っている。</p> <p>今後の目標をもつことができる。</p> <p style="text-align: center;">自己評価カード</p>
<p>感想をまとめる。</p> <p>感想を短い文章にまとめる。(次回「国語通信」で紹介する。)</p>	<p>自己評価カードに記入したことをもとに、自由に文章化させる。</p>	<p>感想を文章化することができる。</p> <p style="text-align: center;">ワークシート</p>

⑧資料

対話の セッション

自己評価カード

単元

学習後に入る前には……事前診断

① 対話の準備を促して聞ける。

② 対話の準備を促して聞ける。

③ 対話の準備を促して聞ける。

④ 対話の準備を促して聞ける。

⑤ 対話の準備を促して聞ける。

⑥ 対話の準備を促して聞ける。

⑦ 対話の準備を促して聞ける。

⑧ 対話の準備を促して聞ける。

⑨ 対話の準備を促して聞ける。

⑩ 対話の準備を促して聞ける。

これからの課題と目標

自分の考えと相手の考えは、つながっていてもまだ前だから相手の考えなども納得して自分の考えも深めていけたらいいと思う。そんな対話をするのも楽しみなことだと思う。

単元を振り返って今までの成長

最初は対話の準備ができていなかったけど、今は準備ができて対話ができてきた。相手の考えも聞いてきた。対話ができてよかった。相手の考えも聞いてきた。

平組	対話の準備ができていない	対話の準備ができていない	対話の準備ができていない	対話の準備ができていない	対話の準備ができていない	対話の準備ができていない	対話の準備ができていない	対話の準備ができていない	対話の準備ができていない	対話の準備ができていない	対話の準備ができていない
----	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

資料1 自己評価カード(表) 「事前診断」および「単元を振り返って」
単元に入る前と学習後に自己評価を行うことで、自分の変化に気づき、はっきりと目標を意識することができた。

- ・初めのころは一言も話していないこともあったけれど、今では初めのころとは違うとよく分かる。対話は楽しいと思った。
- ・最初の対話レッスンと比べて、今日の対話が一番よかったと思う。自分も積極的に対話できた。女子と話す機会がなかったから、よい機会になったと思う。やっぱり対話は大切なことだと思った。質問や答え方によっても対話は変わってくると思った。
- ・今までは自分の考えばかり言っていた。でも対話の学習をして、人の話を聞くのも大切なんだと分かった。自分はすごく変わって成長できたと思う。
- ・最初の方は積極的に話に参加できなくて、全然対話にならなかったけれど、だんだんと対話のレッスンをやっていくうちに、たくさん相手に質問することができるようになりました。その質問によって、人の普段見えなところに分かったりできてよかったと思います。
- ・この対話のレッスンを終えて、僕は対話の本当の意味、対話の必要性が分かったと思います。この授業をやる前は僕は対話がそんなに好きではありませんでした。そのときは対話の意味もよく分からなかったから、対話はただの「言葉のキャッチボール」だと思っていましたがこの授業をやっていくうちに「心のキャッチボール」という感覚になってきました。対話は僕たちにとってとても重要なものです。この先も、もっと対話を頑張りたいです。

対話練習③				対話練習②				対話練習①			
今日の成果と反省	目標	対話	聞く	今日の成果と反省	目標	対話	聞く	今日の成果と反省	目標	対話	聞く
今日の対話練習は、最初は緊張してうまく話せなかったけど、だんだん慣れてきた。相手の話をよく聞けるようになった。	相手の話をよく聞く。	自分の考えを相手に伝える。	相手の話をよく聞く。	今日の対話練習は、最初は緊張してうまく話せなかったけど、だんだん慣れてきた。相手の話をよく聞けるようになった。	相手の話をよく聞く。	自分の考えを相手に伝える。	相手の話をよく聞く。	今日の対話練習は、最初は緊張してうまく話せなかったけど、だんだん慣れてきた。相手の話をよく聞けるようになった。	相手の話をよく聞く。	自分の考えを相手に伝える。	相手の話をよく聞く。
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
11/11	11/11	11/11	11/11	11/11	11/11	11/11	11/11	11/11	10/29	10/29	10/29

資料2 自己評価カード（裏） 対話練習①～③
 1時間ごとの目標と成果を意識し、だんだん難易度が上がることで、自分の目標を考えることで、意欲が高まっていった。

対話練習② 川柳下書き

対話練習②の川柳下書き

A これだけ日記を書かなくてもいいよ

B 知らぬ間にインスピレーションが来たらどう

C 「サード」に「サード」は必要

D 高まっていきつらいけど嬉しいの

E 神様はなりかわれぬらうとしたいこと

今週は...
今週は...
今週は...

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1																															
2																															
3																															
4																															
5																															
6																															
7																															
8																															
9																															
10																															
11																															
12																															
13																															
14																															
15																															
16																															
17																															
18																															
19																															
20																															
21																															
22																															
23																															
24																															
25																															
26																															
27																															
28																															
29																															
30																															
31																															
32																															
33																															
34																															
35																															
36																															
37																															
38																															
39																															
40																															
41																															
42																															
43																															
44																															

資料3 対話練習②のために
一つ一つの川柳にコメントを書いてから対話に臨んだことにより、発言のきっかけがつかみやすくなった。

対話練習②のテープ起こし

AA: ...
AB: ...
AC: ...
AD: ...
AE: ...
AF: ...
AG: ...
AH: ...

BA: ...
BB: ...
BC: ...
BD: ...
BE: ...
BF: ...
BG: ...
BH: ...

CA: ...
CB: ...
CC: ...
CD: ...
CE: ...
CF: ...
CG: ...
CH: ...

DA: ...
DB: ...
DC: ...
DD: ...
DE: ...
DF: ...
DG: ...
DH: ...

EA: ...
EB: ...
EC: ...
ED: ...
EE: ...
EF: ...
EG: ...
EH: ...

FA: ...
FB: ...
FC: ...
FD: ...
FE: ...
FF: ...
FG: ...
FH: ...

GA: ...
GB: ...
GC: ...
GD: ...
GE: ...
GF: ...
GG: ...
GH: ...

HA: ...
HB: ...
HC: ...
HD: ...
HE: ...
HF: ...
HG: ...
HH: ...

資料4 対話練習②のテープ起こし
テープを聞くだけではなく文字にすることで、対話を客観的に振り返ることができた。また、他の班の様子も一目瞭然とお互いに参考にしていた。

3班 対話練習③

(1) 私の好きな言葉

リーダー 年 組

私の好きな言葉は「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」です。

私の好きな言葉は「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」です。

(1) 私の好きな言葉

年 組

私の好きな言葉は「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」です。

私の好きな言葉は「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」です。

私の好きな言葉は「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」です。

(1) 私の好きな言葉

年 組

私の好きな言葉は「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」です。

私の好きな言葉は「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」です。

(1) 私の好きな言葉

年 組

私の好きな言葉は「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」です。

私の好きな言葉は「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」です。

私の好きな言葉は「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」です。

資料5 対話練習③のために

事前に書いたものをもとに班ごとに一枚ずつのプリントにしたことで、班員の考えていることをつかみ、効果的な質問を考えてから対話に臨めた。

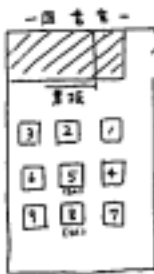
また対話のレスポンス 対話練習③

いよいよ最後の対話です。少しずつ思いつくように聞いてきた人が増えてきました。今度もこのように続けてきたら、今日こそがんばりましょう。

対話練習③

- ① 相手の好きな言葉について質問する
- ② 自分が好きな言葉について質問する
- ③ 新しい発見や感想を話し合う

班員名	好きな言葉	質問	回答
1	人生は長い旅である		
2	人生は長い旅である		
3	人生は長い旅である		
4	人生は長い旅である		
5	人生は長い旅である		
6	人生は長い旅である		
7	人生は長い旅である		
8	人生は長い旅である		
9	人生は長い旅である		
10	人生は長い旅である		
11	人生は長い旅である		
12	人生は長い旅である		
13	人生は長い旅である		
14	人生は長い旅である		
15	人生は長い旅である		
16	人生は長い旅である		
17	人生は長い旅である		
18	人生は長い旅である		
19	人生は長い旅である		
20	人生は長い旅である		
21	人生は長い旅である		
22	人生は長い旅である		
23	人生は長い旅である		
24	人生は長い旅である		
25	人生は長い旅である		
26	人生は長い旅である		
27	人生は長い旅である		
28	人生は長い旅である		
29	人生は長い旅である		
30	人生は長い旅である		
31	人生は長い旅である		
32	人生は長い旅である		
33	人生は長い旅である		
34	人生は長い旅である		
35	人生は長い旅である		
36	人生は長い旅である		
37	人生は長い旅である		
38	人生は長い旅である		
39	人生は長い旅である		
40	人生は長い旅である		
41	人生は長い旅である		
42	人生は長い旅である		
43	人生は長い旅である		
44	人生は長い旅である		
45	人生は長い旅である		
46	人生は長い旅である		
47	人生は長い旅である		
48	人生は長い旅である		



話を引き出すための質問を考えてみよう。

「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」という言葉を聞いて、どう思いますか？

「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」という言葉を聞いて、どう思いますか？

「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」という言葉を聞いて、どう思いますか？

対話練習③の目標は、相手の好きな言葉について質問することです。それは他人の家で飲む飲み物のような、その人にとって大切なものについて質問することです。

「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」という言葉を聞いて、どう思いますか？

「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」という言葉を聞いて、どう思いますか？

「人生は長い旅である。目的地はわからない。だから、旅を楽しもう。」という言葉を聞いて、どう思いますか？

資料6 対話練習③のために

一枚で「本時の目標」「班の位置、メンバー、係」「考えた質問」がすぐ分かるように、さらに「対話の中で光った質問や発言」を記録できるようにした。

(4) まとめ

音声言語班では、「音声言語活動を通して、自ら課題をもって主体的に考える生徒を育てるための指導と評価の工夫」という副主題を設定し、研究仮説に基づき研究を進めてきた。ここでは、研究仮説に従い検証授業を行いながら改善を重ねていく中で得られた成果と今後の課題についてまとめる。

成 果

研究仮説に従い、「発言の要旨をとらえる力」「相手の考えを引き出す力」「筋道を立てて話す力」の三つの力を育成することにより思考力をはぐくむことができるよう、次のような方策を立てて研究を行い、一定の成果を得ることができた。

ア 話し合いを記録し、振り返ることについて

音声による言語活動を記録し、その振り返りを行うことで、資料1、2に見られたように、生徒は新鮮な感覚を味わい、意欲的に活動した。また資料4に見られるように、話し合いを聞き直したりテープを文章に起こしたりする中で、自分の話し方を客観的に見つめることができた。また、このことは自分の話す内容や質をより高めたいという向上心を引き出すことにつながった。生徒自身に話し合いの題材を選ばせたことも意欲を引き出すことに役立った。

イ ワークシートの活用と工夫について

対話学習のために資料3、5、6のように事前に話し合う材料を考え、段階を設定して生徒に学習の見通しをもたせていった。また、資料4の話し合いのテープ記録を書き取らせていくワークシートを使い、話し合いの「脈絡」を確認することができた。具体的には 飛躍した意見や論点のずれなどを自ら発見し修正していくことができた点 相手の意見に対する聞き手の発言内容に着目することで、聞き手がどの程度相手の発言内容を把握していたのかを確認した点 質問の内容が有意義だったのかどうかを振り返ることで、よりよい話し合いを行うことの手がかりが得られた点 どのような言い方をすれば相手に自分の考えを正確に伝えられたのかを考えることができた点 簡潔で筋道の通った話をすることの必要性を理解し、自分の話し方と比べて改善することができた点である。

ウ 自己評価表の作成について

生徒の意欲の喚起と言語技術向上のための手がかりになるよう、資料1、2のように自己評価カードを工夫して作成した。自己評価カードは、目標が明確で比較的達成しやすいものを基本に、少しずつ難度の高いものへと段階を追って基準を設定するように配慮した。この活用により、生徒自身の自己評価の質が高まるとともに、話し合いの技術が向上したという実感をもたせることができた。その結果、生徒は自分の学習状況を意識して、さらに意欲的に活動することになった。また、資料1のように学習の導入段階で自己評価を診断的評価の一部として活用することで、生徒の変容を知るための有効な手だてとすることができた。

今後の課題

ア 音声言語の活動の記録をとり、それを評価することは教師による目標に準拠した評価を行う場合に役立つ。しかし、その記録の確認作業はとかく繁雑になりやすいことから、実際の指導の中で、こまめに評価を行うための工夫や手だてをさらに開発する必要がある。

イ 一般に思考力の向上に関しては、事前と事後のテストによる調査で、ある程度把握することができるとされている。しかし、それはあくまでも生徒の思考力の変容の一部分に過ぎず、指導の成果に関しては、系統的かつ継続的な取り組みと評価の積み重ねが必要である。

研究のまとめと今後の課題

(1)研究のまとめ

本研究では、「思考力を高め、主体的に学ぶ力を育てる指導と評価の工夫」を研究主題とし、思考力を高めるための指導の工夫と、主体的に学ぶ姿勢の育成に取り組み、その評価の在り方について検討した。

「読む」「聞く」による情報入手と「書く」「話す」による意見発表との間にある主体的な過程を思考ととらえ、そこに道筋を付けさせる手だてを加えることで、思考という目に見えない活動に具体性をもたせ、生徒自らが意欲的に取り組む姿勢を促す。そして、その明らかにされた思考の過程を踏まえ、他者との意見交換をさらに重ねることで思考力を育成する。思考を目に見える形にし、その変化と深まりが分かるような手だて（例えばワークシート）を用いることで、より客観的な評価を行う。このような方策についての共通理解に基づき、文字言語、音声言語それぞれの特性に合わせ、二班に分かれて研究を行ない、成果を得ることができた。

文字言語班では、根拠を明確にし協議して話し合うことにより、読みをさらに深め、思考の道筋をつけさせることを目的に授業を行った。自分の意見の基となる根拠を明確にしてワークシートにまとめることにより、自分の意見に論理性をもたせることが可能となった。また、根拠は何かという謎解きのような活動により興味・関心が高められ、自ら積極的に根拠を求めていくようになった。次に、互いに根拠や意見を交換して話し合うことにより、自分とは異なる論理展開や新たな読みによる気づきもたらされ、意欲的に意見交換に取り組む姿勢が見られた。さらに、個グループ学級個という学習の積み重ねの過程を通して、自ら進んで思考しようとする態度がはぐくまれ、読みの変化、深まりをワークシートで振り返ることにより、自らの思考過程を吟味し、より客観的な自己評価と目標に準拠した評価が実現した。

音声言語班では、音声言語の活動を記録し、振り返りを行うことで生徒の意欲を喚起し、「発言の要旨をとらえる力」「相手の考えを引き出す力」「筋道を立てて話す力」の三つの力を育成することを通して思考力をはぐくむことを目的に研究を重ねた。話し合いの脈絡を確認することで、自分たちの話の中に論理のずれや無関係な発言などが多いことを自覚させ、脈絡を考えて発言しようとする意識をもたせることができた。録音した内容を文章に起こし見直すことは、生徒の新たな経験であり新鮮に感じたようで、より言語活動が意欲的になった。また、話し合い活動を録音し聞き直すことで、自分の話し方の特徴を理解させるとともに、間の取り方や声の大きさなどの話す際の基本的な技術にも着目させ、話し方を向上させることができた。

(2)今後の課題

思考とは特定の場面の特定の活動ではなく、理解から表現の全過程に伴うものである。したがって、思考力を高めるためには、様々な場面や機会をとらえ常に思考しようとする意欲を喚起し、指導を継続することが必要である。また、日常的に自らの思考を振り返り適切に自己評価させるような指導の工夫や手だてについても、さらなる開発が必要であると考えられる。

平成15年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成15年度 第31号

平成16年1月21日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 勝田印刷株式会社